

平成26年度 学校自己評価（学校運営・教育内容に関するもの）

平成27年12月15日

ルネサンス大阪高等学校  
学校評価・改善委員会

|             |   |
|-------------|---|
| 教育理念        | 学ぶ楽しさを知り、自ら学ぶ力と豊かな人間性を身につける   |
| 目標<br>(テーマ) | <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力を再生して（学力回復教育）高校を卒業</li> <li>学ぶ楽しさを体験する科学的授業で、生涯を学び人に</li> <li>目覚めよ！自分力。早期にやりたいことにチャレンジ</li> <li>目標の実現をサポートする教育システムの提供</li> </ul> |

※評価基準・・・A:達成できている B:どちらかと言えば達成できている C:どちらかと言えば不十分である D:不十分である

| 分類             | 評価の観点       | 評価項目                                    | 具体的な評価項目   | 評価   | 評価理由  | 改善方針  |
|----------------|-------------|---|--|--|---|---|
| 学校運営           | 教育課程        | 学習指導要領の対応状況                             | 教育課程は学習指導要領に沿っており、その編成・実施の考え方について、教職員間で共有できている。            | A  | 学習指導要領に則した教育課程を編成し、単位認定に必要な面接指導時間を年間計画により十分に確保している。教育課程実施の考え方については教頭・教務主任を中心に各教員へ理解度を高め、共有を図っている。   | 面接指導については添削指導のみでは実現できない内容（観察実験や実技、討論等）の一層の充実を図っていく。また基礎学力が不足している生徒への対応として学校設定科目等の設置を検討していく。 |
|                |             | 教育目標                                    | 生徒の学力・体調面など、個々の状況に応じた支援・指導を行っている。                          | A  |   |   |
|                | 教職員連携       | 組織運営                                    | 本部及び本校の校務分掌や主任体制などが適切に機能するなど、学校の運営・責任体制が整備されている。           | B  | 開校1年目ということもあり、年度途中での校務分掌変更など柔軟に対応し、主任主事を中心とする運営体制の整備を行った。教員と事務は同一スペースにて執務を行い、職員会議も同席するなど緊密な連携体制を築いている。今後は本部（東京）と校舎間のより深い連携を見据えた運営体制を確立していく。 | 株式会社立という特性を生かし、情勢の変化に即応する体制を整えていく。本部⇄校舎間の人員交流・研修・異動を含めフレキシブルな運営体制を確立する。                     |
|                |             | 教員・教科間連携状況                              | 教職員間の相互理解がなされ、共有及び信頼関係が構築され、教育活動が行われている。                   | B  |   |   |
|                |             | 教員と事務職員の連携状況                            | 教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解及び連携がとれている。                         | B  |   |   |
|                |             | 会議の有効性                                  | 職員会議・スクーリング会議などの共通認識・共通理解のもと、有効かつ効率的に機能している。               | B  |   |   |
|                | 財務関係        | 財務に関する意識                                | 経営指標と財務状況について理解している。                                       | B  | 本校運営責任者による財務状況等の説明を年度末に行った。財務は本部担当業務ということもあり、経営状況に対する教職員の意識が薄いことが今後の課題である。  | 本部職員の異動を含め、経営指標等への意識向上を図る。  |
|                |             | 財務状況の把握                                 | 予算・決算の収支状況に関して理解している。                                      | B  |   |   |
|                | 危機管理        | 役割分担                                    | 事故・事件・災害などに対する連携及び役割分担が明確になっている。                           | A  | 事故災害等に関する危機管理は校務分掌にて規定されている。また弊社はプライバシーマークを取得しており個人情報管理についての研修会も定期的に行っている。地域公共機関との連携は、開校1年目ということも十分に対策が取れなかった。                              | まずは消防、市危機管理室と連携をとり防災教育、研修の充実を図る。また、緊急時用の非常食等備蓄を検討する。  |
|                |             | 安全管理                                    | 学校内の安全点検管理及び諸活動が実施されている。                                   | B  |   |   |
|                |             | 危機管理対応状況                                | 危機管理マニュアルに基づき、市役所、警察、消防と連携するなど、安全対策がとれている。                 | C  |   |   |
|                | 渉外          | 生徒募集                                    | 学校説明会の実施や学校案内パンフレットなど、効率的な広報に工夫・充実させる。                     | C  | 今年度については短期の募集告知となったため目標1000名に対して入学者403という結果に至っており、より広報体制募集体制の充実を検討している。また地域教育機関への告知、認知がまだ低いと認識しているため、こまめな活動で認知度向上を図る。                       | 府内は言うに及ばず、奈良・兵庫等近隣府県の中学校高等学校へも学校訪問を行い、認知度の向上を図っていく。   |
|                |             | 各教育機関との連携                               | 市町村教育機関への訪問や県学連協議会加盟校と連携した広報活動をしていく。                       | C  |   |   |
|                | 教育内容・支援     | 面接指導・添削指導等                              | スクーリング参加状況   | 年間スクーリング日程計画に基づいた参加促進を行う。  | A   | 各担任が電話・LINEなど様々な方法で丁寧にスクーリング参加を促し、92%の生徒が規定のスクーリングを終了することができた。                              |
| スクーリング内容（面接授業） |             |   | 各科目担当者が創意工夫を行い、生徒の興味・関心・意欲が高められる授業を展開していく。                 | A  | 各科目担当者はIT機器の活用など工夫を行い、生徒満足度アンケートでは5段階評価で4.1であった。  | 生徒の満足度を高めるべく各教科で指導内容のさらなる精選を図る。   |
| レポート内容・添削      |             |   | レポートが学習成果（興味・意欲・関心）につながる内容になっている。また、インターネットを活用した添削結果の遅延がない | B  | 開校初年度ということもあり、レポートを作成にあたって本社の教務本部との連携が十分にできていなかった面があった。またごく一部の教員に添削の遅延がみられた。  | 教務本部とのさらなる連携の強化を行い、教務部による各教員への添削の働きかけを定期的に行う。また動画の内容の改善も行う。                                 |
| 情報発信           |             | ネット回線の有効活用                              | 本校独自でネット開設している「マイページ（通称）」にて、タイムリーな情報提供を行っている。              | A  | 本社のシステム部と本校のシステム担当の連携はうまく機能していた。  | 担任は生徒に対しさらなる利用の促進に努める。  |
|                |             | 個人に対する効果的な情報提供                          | 本校独自でネット開設している「マイページ（通称）」にて、生徒個々の学習進捗が確認できる。               | A  | 各担任はマイページで進捗状況を確認し、レポート提出促進・スクーリング参加促進に活用した。  | 27年度より保護者用マイページが開設されるので、それを活用した保護者との連携強化を行う。  |
| 情報教育           |             | 情報能力知識                                  | 各種活用能力の知識を向上させる。   | B  | 担任指導や情報の授業で知識向上に取り組んでいるが不十分である。   | 教員の情報能力・知識の向上に努め、IT能力に長けた人材の登用を行う。  |
|                |             | 情報モラル指導                                 | 情報発信・公開に伴う責任など情報モラルの教育に取り組む。                               | B  | 情報科を中心に情報モラル教育の推進に取り組んでいるが不十分である。   | 教員の情報能力・知識の向上に努め、IT能力に長けた人材の登用を行う。特別活動で情報モラル教育を行う。  |
| 生徒・進路・保健指導     | 生徒指導        | 指導方針の一貫性                                | 指導方針に従い、生徒及び保護者の満足度（進級卒業・進路決定など）を高める。                      | A  | 卒業率は97%と満足のいくものであった。  | 進路指導部を中心に進路決定率のさらなる向上を目指す取り組みが求められる。  |
|                |             | 生活指導について                                | 学校組織に基づき、生徒が安全に諸活動ができるよう共通認識にて運営していく。                      | A  | 生徒指導部を中心に組織的に取り組んだ。   | 今後も生徒指導部の方針を各教員に徹底する必要がある。  |
|                |             | 家庭との連携状況                                | 計画的かつタイムリーな連携をとり、充実した学校生活が送れるよう支援していく。                     | B  | 担任の教員はそれぞれに努力したが、バックアップ体制の構築が課題である。   | 保護者の来校機会の増加による信頼関係の構築、外部専門家の協力が求められる。   |
|                | 進路指導        | キャリア教育について                              | キャリア教育（進路指導）に取り組む体制が整備され、生徒の自立に向けた取り組みが実践されている。            | B  | 若手の教員が多いため進路指導支援体制の拡充は喫緊の課題である。   | 進路指導部を中心とした教員研修を行う体制の整備が必要である。  |
| 保健指導           | 健康の保持増進について | 心身ともに健康であるための支援（定期連絡やスクーリング時における授業にて支援） | A  | 保健の授業で健康について触れている。またスクーリングに参加する生徒に対し保健室から聞き取り調査を行っている。担任も生徒連絡時に確認している。 | 前籍校で保健を修得済みで履修しない生徒もいるので、保健室からの積極的な情報発信を図る必要がある。  |   |
| その他            | 教職員研修       | 資質向上                                    | 教職員間で職務内容（生徒対応など）を把握し、意見交換などを行う機会を設定している。                  | A  | スクーリングの前の週に打ち合わせを設定し、情報交換を行っている。  | ひきつづき情報共有の徹底が必要である。   |
|                |             | 研修の充実（校内・校外）                            | 教職員が計画的に校内研修に参加できる習慣や体制が整備されている。                           | B  | システム面、教務面の研修は頻繁に行われたが、授業に関する研修の機会が少なかったことは否めない。   | 外部の研修に参加しやすい体制の構築が必要不可欠である。内部の研修としては生徒への接し方が特に重要である。また外部の講師を招くことも考える必要がある。                  |
|                |             | 他校及び関係機関との連携                            | 姉妹校との連携を深め、通信制高校としての在り方などの情報交換を行い、学校全体としての向上を高める。          | B  | 宿泊型スクーリングの姉妹校と通学型スクーリングの本校では抱える課題が違いため、連携には困難が伴う。   | 引き続き姉妹校等の連携強化を行う。   |
|                | 地域との連携      | 地域への貢献                                  | 地域行事への参加、経済的貢献。  | C  | 都市部のため地域のつながりが薄いという困難を抱えているが、隣接するコンビニエンスストアとの提携を行った。  | 地域のボランティア活動への参加や、地域を知る活動を視野に入れる必要がある。   |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 校長  | 教頭  | 事務長   |
|  |  |  |